

4

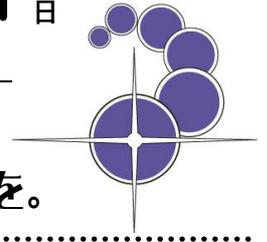
CREATIVE

学年だより

第 10 号 令和元年 7 月 11 日

県立村上中等教育学校（15期生）

● 渡航前に、日本とあなた自身についての理解を。



Mount Alvernia High School

マウント・アルバニア

	1組	2組
プレゼンテーション	日本の文房具（シャープペンシル・ペン・マステ・消しゴム・ペンシルケース）	日本のアニメの魅力
ワークショップ	①日本の伝統的な遊び ②日本のお菓子	つまみ細工の作成



Runcorn State High School

ランコーン

	1組	2組
プレゼンテーション	①笹団子 ②ハイチュウ ③お辞儀の仕方 ④浴衣と着物 ⑤クイズショー	①浴衣の着方 ②日本食 ③箸の使い方
ワークショップ	①浴衣の着付け体験 ②ミニカルタ大会 ③箸の使い方体験 ④茶道体験	①箸の使い方と射的への応用 ②輪投げ体験 ③飴すくい



Beaudesert State High School

ボーデザート

	1組	2組
プレゼンテーション	①日本のお菓子 ②音楽 ③アニメ ④ゆるキャラ	日本語の魅力（豊富な一人称・文字・数字）
ワークショップ	①日本のお菓子体験 ②日本の伝統的な遊び 体験 ③折り紙体験 ④箸の使い方	①知育菓子 ②駄菓子



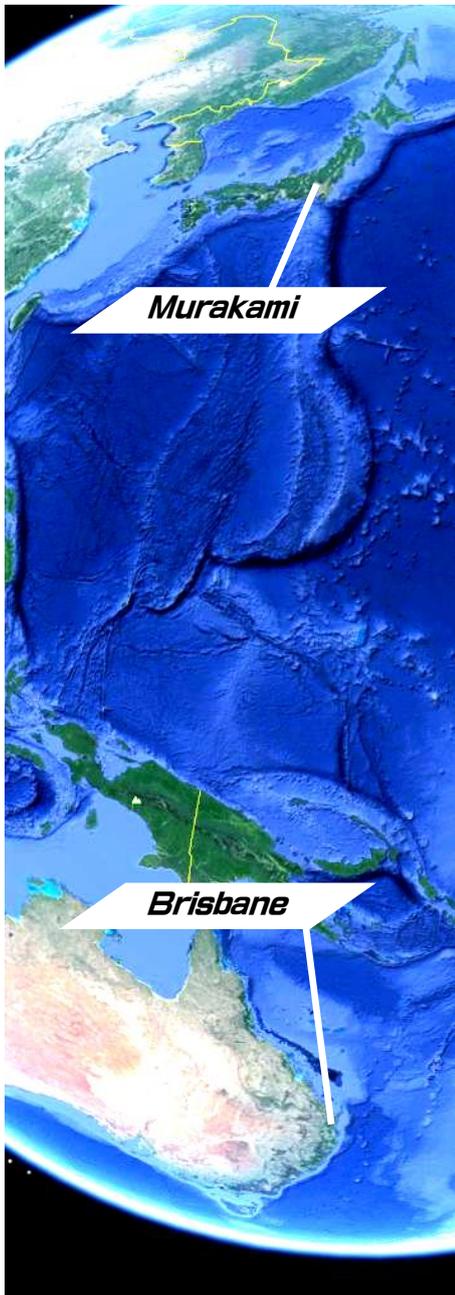
Flagstone State Community College

フラッグストーン

	1組	2組
プレゼンテーション	①日本のマンガ ②七夕の紙しばい	①日本のアニメ ②かわいい文化 ③日本食
ワークショップ	①知育菓子体験 ②豆移しゲーム	①二人羽織体験 ②けん玉体験 ③あやとり ④日本のお菓子紹介

Our
Presentations
& Workshops

現地での発表内容です。プレゼンテーションは原稿を作成し、発表する形式ですが、一方、ワークショップはその場でコミュニケーションを図る場面となります。発表にあたり、これだけは必要という内容や語句を改めて確認しておきましょう。



Taken from Google Earth

まず、オーストラリアってどこにあるかわかりますか。日本からほぼ真南に下りていくと、南半球でオーストラリアにぶち当たる感じ。ですから日本とあまり時差がないのですね。国土面積は774万1千平方キロメートル。日本が37万7千平方キロメートルだから、その大きさはよくわかると思います。逆に人口は日本よりかなり少ないですね。1億2700万の日本に対し、2400万人という感じで人口密度はかなり低いことがわかりますね。

滞在の中での雑感を書いていきたいと思っています。軽見える文章ですが、内容は結構ちゃんとしていますのでしっかり読んでください。今回は、「エアーズロック」について書いてみます。

オーストラリアときいてエアーズロックを想像する人は多い。いろいろな観光パンフレットなどで目にすることが多いですね。そう、あの赤茶色のかい岩のことである。私の母も、私がオーストラリア滞在中にオーストラリアを訪れたことがあり、「あの岩はどこ？連れてって」などと言っていた。(彼女が旅をしたのはオーストラリアの南部、メルボルン近郊で、エアーズロックとは1,000キロくらい離れていた)間違っても週末に連れて行って欲しいなどと言わないように。

オーストラリアの日本人旅行者が多い場所として挙げられるのは、2000年に夏のオリンピックのあったシドニー、それからゴールドコースト(この2つはたぶん皆さんも少しだけ行きます)、ケアンズそしてこのエアーズロック(正確に言えばアリススプリングスという都市の近く)であろう。ここでツアーのガイドは現地の言葉である英語か、もしくは日本語のみのことが多かった。このことから、彼らにとって、日本人客は超お得意様。なので、日本人ガイドとして働く日本人も多いし、町に出ている看板も日本語で書いてあったりする。

エアーズロックとは北部準州(ノーザンテリトリー)というところがあり、オーストラリアのほぼ中心に位置する。そのポコッと突き出た形から、オーストラリアもしくは地球の「へそ」とも呼ばれている。エアーズロックは「ウルル国立公園」の中にあり、その公園に入る入園券を購入しなければ入ることはできない。それを公園入り口のゲートのところで見せなければならないのだが、ほとんどの人はツアーの観光バスで入るため、バスのなかで一人一人チェックされるのかと思いきや運転手が「はい、チケットあげてください」といわれ全員が適当にチケットをあげて、バスの外にいる係員のみにみせるのである。



(森平先生撮影)

それを係員も見たか見ないかわからないまま、バスは公園内に入っていくのである。このあたりにオーストラリアのアバタさ、適当さを見た感がある。入場料は確か1,500円くらいだったような気がする。

「風の谷のナウシカ」というアニメをご存知だろうか。このアニメはウルルの中のマウントオルガという場所をモチーフに描かれたようであり、行ってみてるほどと思わされた。とにかく赤土のただっ広い自然が広がり、その中に岩がぽつんとあつたりするのだ。

ウルル国立公園とは、アボリジニ(オーストラリアの先住民)の詳しいことは別の回に話します)にとっては「聖地」であり、本当はよそ者がそこに入りたり、岩に登ったりするという行為は好ましくないとされている。エアーズロックのツアーのバスガイドも、「そういう場所だとわきまえた上で、自分の責任において登りたい人だけ登ってください」という警告を必ず客に伝えるのである。バスガイドたちはアボリジニの歴史を研究し、彼らを尊敬しているため、自分で岩に登ることはせず、「ふもとで待ってますから～時までに登って戻ってきてくださいね」といった感じである。そんな状況であるのだが、オーストラリアに来てエアーズロックに登らずに何を、という人が後を絶たないのである。毎年、「今年限りで登れなくなる」という噂を聞いて、「今登っておかなければ…」という人がたくさん集まるのだから、まだに登れるようである。アボリジニにとっても、聖地を荒らされるのは本意ではないが、「聖地」への入場料で民族の経済が成り立っているという噂もあるので、一概に「他民族は立ち入り禁止」とは言えないのかも知れない。

(注) 読売新聞(令和元年6月27日付)などの報道によりますと、ウルル周辺の登山は10月下旬から禁止される予定です。(水戸)

本校旧職員、大学卒業後、東京の出版社に勤務。のち、日本語教師アシスタントとして年間オーストラリアに滞在。その後、新潟県公立高校教諭となる。これまでスクューバダイビングのライセンスや小型車両系建機(3t未満)を取得する一方で、長年他校にて野球部の指導に携わってきた。通称 Mr. Larry。



MR. LARRY のオーストラリア日記

エアーズロックと先住民アボリジニ

執筆 : 森平雅人先生

(現 新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室主任調査員)